

第60回三木市ぶどう品評会審査報告

審査員を代表して、農林水産技術総合センター企画調整・経営支援部の小多から審査報告をさせていただきます。

出品規定に基づいて出品されたぶどう51点について、「第60回三木市ぶどう品評会審査規定」に基づき、農林水産技術総合センター農業技術センター農産園芸部 北村研究員、加西農業改良普及センター 高澤主任、そして小多の3名で審査を行いました。

果粒の着色程度、果粒の大きさや揃い、房のしまり、箱全体での房揃い、傷や果粉の付着度など、外観の比較により審査を行い、特賞12点、優秀賞12点を選定いたしました。

ここで本年を振り返りますと、昨年末から春先にかけては、1月下旬から2月上旬にかけてやや低温で推移し、その後も3月には一時的な冷え込みがみられました。5月は著しい高温となった一方、6月は比較的涼しく、作業がしやすい日も多くありました。また、近畿地方の梅雨入りは速報値で6月4日頃と平年より2日遅かった一方、梅雨明けは7月8日頃と平年より11日早く、昨年ほどではないものの、梅雨期間が短かったことが特徴でした。梅雨明け後は気温が急上昇し、記録的な高温に見舞われた夏となりました。また、8月末に一息つきましたが高温に加え降雨量が極端に少なかったことも今年の特徴です。

そのため、初期の果粒肥大は良好でしたが、かん水設備のないぶどう園では管理に大変ご苦労されたのではないのでしょうか。また、一時的な高温の影響により、日焼けや縮果症の発生も見受けられました。生産者の皆様におかれましては、こうした厳しい環境のなかで栽培管理にご尽力された一年であったと拝察いたします。

このような中で開催された本品評会において、最優秀賞である兵庫県知事賞に選ばせていただきました長谷ぶどう生産組合石田英也さんのシャインマスカットは、粒張りが特に優れ、房の形状や締まりの良いぶどうでした。

その他、上位に入賞された出品物はいずれも着色や粒張りなど、甲乙付け難い優れたものでした。受賞された皆様に改めてお祝い申し上げます。ただ、一言付け加えると、重量オーバーで特賞を逃された方がいたのは非常に残念です。

ぶどう栽培は、ジベレリン処理や房づくりなど、他の果樹類にはない特別な技術が必要となります。一方、令和8年から、「酷暑日」という新たな予報用語が導入されたり、気象警報の出し方も大きく変わりました。異常気象と言われていた夏場の高温や局地的な豪雨は、今や恒常化しつつあるように感じられます。こうした気象環境の変化がぶどう栽培技術にも大きな影響を与えています。

このように、年々厳しく変化する気象条件下でも高品質のぶどうを生産されている生産者の皆様におかれましては、土壌管理・水管理などに加え、着色にも配慮しながら栽培技術の向上に日々取り組まれていることと推察いたします。

今後におかれましても、商品価値の高いぶどうの安定生産技術に磨きをかけていただければ幸いです。

最後に、これまで続いてきた本品評会の開催に御尽力いただきました関係者の皆様に敬意を表するとともに、出品いただきました生産者の皆様にお礼申し上げ、審査報告といたします。

令和8年9月4日

審査長 兵庫県立農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部 小多 善功